

UCIワールドチーム含む海外出場チームが一部決定！ Global Cycle City UTSUNOMIYAに世界トップクラスが集う

2019年10月18日（金）～20日（日）の日程で開催する、アジア最高位の自転車ワンデイロードレース「2019 JAPAN CUP CYCLE ROAD RACE」に出場する海外チームの一部が決定しました。

世界トップカテゴリーであるUCIワールドチームからは、ジャパンカップへ4年ぶりの出場が期待される新城幸也選手が所属する「バーレーン・メリダ」をはじめ5チームが参戦。

UCIプロフェッショナルコンチネンタルチームからは、ジャパンカップではおなじみの2チームに加え、初出場となる「ワロニー・ブリュッセル」の3チームが出場します。

まだまだジャパンカップには多くの海外・国内チームが出場する予定です。

今後とも決まり次第発表していきますので、出場選手の発表とあわせてご期待ください！

<出場決定チーム>

UCIワールドチーム（5チーム）

- MITCHELTON – SCOTT (MTS/AUS)
- BAHRAIN – MERIDA (TBM/BRN)
- EF EDUCATION FIRST (EF1/USA)
- TEAM JUMBO – VISMA (TJV/NED)
- TREK – SEGAFREDO (TFS/USA)

UCIプロフェッショナルコンチネンタルチーム（3チーム）

- NIPPO - VINI FANTINI – FAIZANÉ (NIP/ITA)
- TEAM NOVO NORDISK (TNN/USA)
- WALLONIE BRUXELLES (WVA/BEL)

【報道関係者お問い合わせ先】

2019ジャパンカップサイクルロードレース広報事務局（株式会社ジュンプロモーション）担当：小原、川上
TEL: 03-3402-5136 / ケータイ：090-9854-9542（小原） MAIL: info@junpro.co.jp（小原）

<UCIワールドチーム紹介>

**MITCHELTON – SCOTT (MTS/AUS)**
ミッチェルトン・スコット (オーストラリア)

昨年に引き続いての出場となる、ホテルやレストランチェーンも展開するワインメーカー、ミッチェルトンがメインスポンサーのオーストラリア籍チーム。

今季もサイモンとアダムのイエーツ兄弟 (イギリス) やマッテオ・トレンティン (イタリア)、ルカ・メズゲツ (スロベニア)、ダリル・インピー (南アフリカ) らが序盤からコンスタントに勝利を量産し、プロトンでも確固たる地位を築いている。

昨年のジャパンカップを制したロブ・パワー (オーストラリア) はチーム サンウェブへ移籍したが、今年も連覇を狙う強力な布陣で来日することは間違いないはずだ。

**BAHRAIN – MERIDA (TBM/BRN)**
バーレーン・メリダ (バーレーン)

2017年に創設されたバーレーン国籍のチーム。前身のチームの面影を残しイタリア色が濃いものの、所属選手は多国籍軍といった様相。

絶対的エースのヴィンチェンツォ・ニバリ (イタリア) を筆頭に、ソニー・コルブレリ (イタリア) や新加入のローハン・デニス (オーストラリア)、ディラン・トゥーンズ (ベルギー) などタレントぞろいだ。新城幸也もその中の一人。

新城は今年出場すれば、ランプレ・メリダで出場した2016年以來のジャパンカップとなる。日本ナショナルチームで出場した15年に記録した3位以上の成績を狙ってくるに違いない。

**EF EDUCATION FIRST (EF1/USA)**
EFEデュケーション・ファースト (アメリカ)

世界最大規模の私立語学学校であるEFEデュケーション・ファーストがメインスポンサーになり2年目を迎えたアメリカ籍のチーム。

今季はアルベルト・ベッティオール (イタリア) がツール・デ・フランドルを制したほか、ダニエル・マルティネス (コロンビア)、ヒュー・カーシー (イギリス) がUCIワールドツアーで勝利を挙げるなどコンスタントにリザルトを残している。

また、グラベルのエンデュランスレースに選手たちが出場するなど、種目を超えた活躍も光る。「ドンちゃん」の愛称で日本でも人気のジョセフロイド・ドンブロウスキー (アメリカ) は今年も来日するか。

**TEAM JUMBO – VISMA (TJV/NED)**
チーム・ユンボ・ヴィスマ (オランダ)

3年連続でのジャパンカップ出場となるオランダ籍のチーム。今年からノルウェーのIT企業であるヴィスマと5年間のスポンサー契約を結び、チーム名も変更された。

プリモシュ・ログリッチェ (スロベニア)、ディラン・フルネウエーヘン (オランダ)、ステフェン・クライスヴァイク (オランダ) らの既存戦力に、トニー・マルティン (ドイツ) やワウト・ファンアールト (ベルギー) ら新戦力が加わったことで戦力がさらに充実。UCIワールドツアーでも好成績を連発している。

6月のツール・ド・スイスでプロ初勝利を挙げた昨年のジャパンカップ2位、アントワン・トールク (オランダ) の来日に期待。

<UCIワールドチーム紹介>

**TREK – SEGAFREDO (TFS/USA)**
トレック・セガフレード (アメリカ)

ジャパンカップ出場常連となるアメリカ籍のチーム。昨年はジョン・デゲンコルプ（ドイツ）がワールドクラスのスプリントを見せつけてクリテリウムを制し、観客を熱狂させた。

毎年、そうそうたるメンバーで来日を果たすチームだけに、今年のメンバーに関しても勝利を狙った強力メンバーを大いに期待できるだろう。

長らく世界のトップシーンで活躍する日本人選手の一人である別府史之も、当然ながら今年も出場することが濃厚。ワールドツアーのプロトンでもリスペクトされる数少ない日本人の走りに注目だ。

<UCIプロフェッショナルコンチネンタルチーム紹介>

**NIPPO - VINI FANTINI – FAIZANÉ (NIP/ITA)**
NIPPO・ヴィーニファンティーニ・ファイザネ (イタリア)

イタリア籍のUCIプロコンチネンタルチームとして活動5年目を迎える、日本のNIPPOもスポンサーに名を連ねるチーム。

今年末でのチーム解散の報道が驚きと悲しみを呼んだが、日本と世界との橋渡し役となった功績は大きく、そして色あせることはない。

2017年でロードとクリテのダブルタイトルを達成したマルコ・カノラ（イタリア）、ジロ・デ・イタリアで区間優勝を飾ったダミアノ・チーム（イタリア）、そしてそのジロでロングエスケープを決めて話題をさらった初山翔など、最強メンバーで有終の美を目指す。

team
novo
nordisk
PRO CYCLING

**TEAM NOVO NORDISK (TNN/USA)**
チーム ノボ ノルディスク (アメリカ)

今年で6回目の出場となる、日本でもお馴染みのUCIプロコンチネンタルチーム。選手全員が1型糖尿病患者で、世界中の1型糖尿病患者にその走りで勇気と希望を与えている。

今年もダヴィ・ロサーノ・リバ（スペイン）がツアー・オブ・ルワンダで個人総合6位、ツアー・オブ・スロベニアで個人総合18位、シャルル・ブラネ（フランス）がツアー・オブ・エストニアで個人総合7位、ツール・ド・ポローニュで山岳賞争いを演じるなどの活躍を見せる。

毎年、ジャパンカップに合わせて行われている同チームのイベントにも注目だ。

**WALLONIE BRUXELLES (WVA/BEL)**
ワロニー・ブリュッセル (ベルギー)

2011年に創設されたベルギー籍のUCIプロフェッショナルコンチネンタルチームがジャパンカップに初出場する。

自国および周辺国の有望な若手選手を育成して上のカテゴリーへと送り出すことを最大のミッションに据えており、近年はその成果も少しずつ現れ始めている。

チームはUCIワールドチーム経験者のケニー・デハース（ベルギー）やバティスト・ブランカールト（ベルギー）などのベテラン選手、エミルス・リエピンス（ラトビア）をはじめとする中堅、マティス・パーシェーンズ（オランダ）などの若手とバランスの良い編成。ジャパンカップにはどんなメンバーで来日するか楽しみだ。